

■今年の国語は！？

求められる力に大きな変化はなし

■出題形式

大問数は、昨年度（'19年度）と同様に3問であり、小問数にも変化は見られなかった。しかし、形式は昨年度が長文2問に漢字1問であったのに対し、今年度は長文1問に文法1問、漢字1問という形式であった。これは、'18年度以前の大問1問とその他の問題の形とほとんど同じであるので、きちんと過去問に取り組んできた受験生であれば、気にするほどの変化ではなかったと思われる。

40分で取り組むには解答数が多いところは変化がないが、昨年度より文章量も減り、時間配分の面から見ても取り組みやすくなった。

平均点にもそれが表れているように思う。'18年度から昨年度にかけて33.1点から24.1点まで下がった受験者平均点だったが、今年度（'20年度）には28.8点になっている。

全科目で受験者平均点を取っても合格者最低点に届かないことを考えると、少なくとも国語が得意な受験生は、30点を目標にしたいレベルであった。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	2問	3問	3問
小問数	21問	28問	31問
配点	40点	40点	40点
最高点	40点	36点	38点
受験者平均点	33.2点	24.1点	28.8点
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 4教科型（国・算・理の合計）×4/3と国・算・理・社の合計のうち高い方で判定。

3教科型（国・算・理の合計）×4/3で判定

■出題内容

☐ 説明的文章：『化石ハンター 恐竜少年じゃなかった僕はなぜ恐竜学者になったのか？』

小林 快次 約3000字 株式会社PHP研究所

☐ 文法

☐ 漢字

☐ 筆者自身の体験をもとに、自分に合うもの、夢中になれるものとの出会い方や関わり方について書かれた文章。なかなか「夢」が持たなくても、なんとなく興味の持てるものにいろいろ取り組んでいるうちに、「好き」になるものがでてくる。その「好き」になったもののために必要な努力をし始めるようになるのだから、まずは自分がおもしろいと思うことをやるのが大切だということを伝えている。

難しい言葉も使われておらず、出題内容も選択問題やぬき出し問題がほとんどで、傍線部の近くから判断できるものばかりであった。35字程度の記述問題も出題されているが、時間配分のことを考えても、無理に解こうとする必要はないと思われる。

選択式13問+ぬき出し8問+記述式3問（体の一部を表す漢字1字+25字以内+35字程度）の計24問。

☐ 基本的な文法の問題。主語・述語1問。修飾語1問。呼応の副詞や敬語の使い方など正しい日本語表現を問う問題1問。

☐ 熟語の書き取り3つ、訓読みの漢字書き取り1つ。いずれも基本的なものであったが、送り仮名の間違いに気を付けたい。

■合格に向けての対策

昨年度大きく下がった平均点が、今年度は大きく上昇する結果となりました。ただ、その分合格最低点も上がっており、合格するために必要な点数は、基本的な問題、つまり傍線部付近で解決できる問題や指示語・接続語などで切り切らなければならないことに変わりはありません。

大問として出題される文種は決まっていません。そのため、過年度の出題の流れから、出題される文種を予測することは難しくなっています。よって、さまざまな文種の学習を進める必要があります。今後、詩・短歌・俳句が出題される可能性もあるので、これらについても基本的な知識は身に付けておいてください。

ただし、問題形式や文種で目先を変えることはあっても、難解な問題や記述問題が可否を左右するような入試になることは無いと考えられます。あくまで、同志社の長文読解で求められる力は「基本的な問題に対するすばやく正確な処理能力」です。

また、基本的な知識問題や文法問題、漢字の問題も毎年幅広く出題されています。四字熟語や慣用句、主語・述語・修飾語など、こちらも難解なものはほとんど出題されないの、きっちり正解できるよう取り組んでおいてください。

このように同志社の入試において必要なのは「基礎的な総合力」と「スピード」と「正確さ」です。これらの養成のためには、通常授業に加えて「日曜練成講座」「日曜進学教室」で徹底的にトレーニングしてください。そして、これらで養った力をきちんと発揮する練習として、適切な時期に過去問に取り組み、合格点を目指していくという経験を積み重ねていくことが重要だと考えられます。

■今年の算数は！？

受験者平均は28点（70%）前後！ 高得点勝負の算数はミスが命取り！

■出題形式

大問数・小問数ともに大きな変化はない。

1は、計算2問を含む、穴埋め型の基本的な独立小問が合計7問。この形式は'04年度以降、15年以上続いている。

2以降の大問は、小問がつかないストレートな大問が4つで、さらに2問の小問に分かれているものが2つとなっている。小問形式をあまりとらないのは同志社の特徴でもある。

受験者平均点は、'17年度は30.3点と30点（75%）を超えてきたが、'18年度からの3年間は上記の通りである。今年度（'20年度）はやや難しかった年と言えるだろうが、いずれにせよ高得点勝負でミスが許されないテストであることは間違いない。また、出題傾向にも際立った変化は見られない。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	7問	7問	7問
小問数	17問	15問	15問
配点	40点	40点	40点
最高点	40点	40点	40点
受験者平均点	27.6点	28.5点	26.4点
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 4教科型（国・算・理の合計）×4/3と国・算・理・社の合計のうち高い方で判定。

3教科型（国・算・理の合計）×4/3で判定

■出題内容

- 1 (1)(2)四則計算 (3)相当算 (4)比例計算（くるった時計） (5)単位換算（縮尺計算） (6)比例計算 (7)商品売買

2 比と平面図形（隣辺比の利用）

3 速さの問題（平均の速さ）

4 倍数算

5 植木算

6 立体図形（水そうと円柱）

7 速さの問題（比を利用する坂道問題）

今年度平均点が若干下がったのは、2枚目の5, 6, 7が例年より難しめだったからであろう。

5は植木算と差集算の融合問題。2種類の旗の立て方から、旗の本数の差が $20+8=28$ （本）になるので、間の数の差も28になることに気付いてほしい。6の(2)は、はじめ水面より上にあつた円柱（高さ4cm分）がすべて水につかたと考えると簡単に解ける。7の(1)は、同じ距離を進んだときの「速さの比」と「時間の比」が逆比の関係になることを利用して解くものだが、これは同志社では定番中の定番である。

■合格に向けての対策

最近の同志社では突拍子もない難問は出題されていません。特に1の小問群は5年生レベルの基本問題ばかりです。したがって成基学園のテキストで言うならば、5年の全範囲や6年前期テキストのステップA、ステップBレベルの問題が、いつでもここから出されても絶対に解ける、という対応力を身につけられれば、ほぼ安心できると思われます。一度解けた問題であっても、解き方を忘れないようによくくり返し練習してください。

同志社の傾向としてまず言えるのは、文章題中心の学校であるということです。文章題は「比・割合」、「平均算」、「速さ」が圧倒的に多くなります。「比・割合」の問題については、相当算や倍数算、倍数変化算を中心に、線分図をかいて処理する練習をしてください。「平均算」は、面積図などを描くまでもなく計算で処理できる平易なものが多くなります。

「速さ」の問題は、'17年度からは毎年大問で2問ずつ出題されていて、そのうち1つは最終問題（大問7）になっています。最終問題はほとんどの場合その年の一番の難問になりますが、中学受験の問題集の中から選んできたような典型的な問題が多いので、十分に対応可能です。特に目立つのが今年度の7のような坂道問題で、最近では'11年度、'12年度、'14年度、'16年度、'17年度にも同様の出題が見られます。

計算については、小数や分数の計算が毎年2問ずつ出題されています。また、時間の計算が結構な頻度で出題されているので、これもしっかり練習しておいてください。

図形は平面図形が中心で、比を利用して解く問題が目立ちます。それも、「底辺の比と面積比」や「高さの比と面積比」に関わるものばかりで、「相似（図形の拡大と縮小）」を利用しないと解けないものはほとんど見られません。昨年度（'19年度）は珍しく相似の出題がありましたが、相似の重要性は他校と比べて極端に低いと言えます。「角度」に関しては、今年度は有りませんでした。ふつう最近では1の小問で1問ずつ出題されています。奇抜な問題はなく標準的なものばかりなので、確実に正解してください。

■今年の理科は！？

“らしさ”と“意外性”の共存する問題構成。共通項は「具体性のある身近な題材」であること。

■出題形式

同志社中学校の理科は、長年「小問 40 問で 40 点満点」「試験時間は 40 分」「記号選択問題が多い」など、同様の試験形式が受け継がれてきた。そのような環境の中で大きく変化したのが、「大問数」である。今年度（20 年度）の大問数は 5 問となっているが、これは同志社中学校の過去の問題と比較しても飛びぬけて少なく、その結果大問 1 つあたりの問題数が増加した。

	2018 年度	2019 年度	2020 年度
制限時間	40 分	40 分	40 分
大問数	7 問	6 問	5 問
小問数	40 問	40 問	40 問
配点	40 点	40 点	40 点
最高点	39 点	38 点	37 点
受験者平均点	29.1 点	28.8 点	28.5 点
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 4 教科型（国・算・理の合計）×4/3 と国・算・理・社の合計のうち高い方で判定。

3 教科型（国・算・理の合計）×4/3 で判定

また、注目すべきは「理科と社会の受験者平均点」である。例年、理科の平均点が社会よりも高かったのだが、今年度は理科が 28.5 点で社会が 28.8 点と、ほぼ同じとなった。このため、長らく同志社の入試について言われてきた「3 教科入試有利」という傾向が崩れたのである。4 教科の総合力が問われる試験になったといえる。

■出題内容

- 【1】 理科総合 川の環境と生物・気体の発生・気象の変化
- 【2】 生物 四季の植物
- 【3】 生物 様々な自然環境・環境問題
- 【4】 理科総合 動物の分類・慣性の法則・気体の体積変化・気体の発生・水の状態変化
- 【5】 理科総合 相対的なものの見え方

【1】 川の流れのようす、川にいる生物、川に落ちているものなど、さまざまな内容にわたる総合問題。小問数 11 問と、同志社の問題としてはかなり数が多い。豪雨の被害が多かった 2019 年を意識してのものなのか、最後の問題に川にいるときに取るべき行動についての出題がある。

【2】 アンチンボルドという画家が春夏秋冬の植物を題材に描いた 4 枚の絵画をテーマに使った問題。それぞれの絵画は、季節の植物を組み合わせて人の顔を描いており、使われている植物についてはきちんと説明がなされている。例年と同様にテーマのとなっているもの、今年度であれば実質的に絵画についての知識は必要ない。同志社恒例の出題形式である。（過去には絵本や漫画、宮沢賢治の小説などをテーマにした問題が出題されている。）

【3】 海や湖、山の環境についての総合問題。後半の山における実際の温度と体感温度のちがいを計算させる問題は、近年出題され始めた計算問題にも、何か同志社らしい色を付けようと探っているようにも感じる。

【4】 金魚、ダルマ落とし、空気てっぽう、カルメ焼き、ボンボン船に関する総合問題。題材は現代の受験生にはなじみの薄いものばかりだが、それぞれどのようなものかの説明はついており、理科の知識につながっている。同志社側の「この問題を解いてほしい！」という熱意を感じる問題の構成である。「こういうものに興味を持ち、体験してきている子を合格させたい！」という理科担当者の気持ちの表れ、ともいえるだろうか。

【5】 3 枚の写真から、物体の高低と奥行き、位置関係を考えさせる問題。図をかいて考えるのが正解の近道になるのだが、よく似た問題を過去にやっていないと、正解するのはなかなか困難であろう。物体の運動と見え方については過去に何度か出題されているので、過去問を解いていれば、その経験がものをいう問題。

■合格に向けての対策

基本的な知識の定着を最優先とすべきです。出題内容のほとんどは通常授業テキスト（『スーパーノート+テキスト』）中でふれられています。まずは、ショートテストβで 85 点をキープできる力を身に着けましょう。その上で、同志社中学校の過去問題を複数年解いてください。記号選択の問題に多くふれることで、消去法の使い方も自然に身に着きます。

また、さまざまな生物や植物の知識は多ければ多いほどよいといえます。今年度出題されたヘビトンボやプラナリアをはじめ、過去にはキアゲハやアオスジアゲハ、ヌートリアにゴボウやラッカセイの花について出題したことのある学校です。どのような生物が出題されても不思議ではありません。成基学園のテキストだけではなく、いろいろな図鑑に目を通しておきましょう。さらに時事問題対策として、科学に関連したニュースには積極的に触れる機会をもつことをお勧めします。

■今年の社会は！？

6年ぶりの大問数4

■出題形式

今年度（'20年度）は'14年度以来、大問数が1問減り、4問となった。【1】歴史、【2】融合〔地理・歴史〕、【3】地理、【4】公民という形である。大問で公民単独の出題は'17年度以来である。小問数は例年の40問である。解答方法は、昨年度（'19年度）4問あった記述解答は1問のみであった。他は番号または記号による選択肢解答である。歴史と地理の出題割合は、昨年度は地理の割合が多かったが、今年度は、ほぼ同じである。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	5	5	4
小問数	40問	40問	40問
配点	40	40	40
受験者最高点	39	39	38
受験者平均点	28.5	26.2	28.9
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 4教科型（国・算・理の合計）×4/3と国・算・理・社の合計のうち高い方で判定。

3教科型（国・算・理の合計）×4/3で判定

■出題内容

- 【1】歴史 2019年の『京都新聞』の記事をテーマにした総合問題
- 【2】融合〔地理・歴史〕 国道1号をテーマにした総合問題
- 【3】地理 さまざまなしごとのしくみをテーマにした総合問題
- 【4】公民 オバマさん、マララさん、トゥンベリさんの発言をテーマにした総合問題

同志社は時事的内容を問う傾向が強く、毎年出題されているが、今年度は【1】と【4】であろう。同志社といえば文章選択問題であるが、5年前に多く出された1つの選択肢の文がとても長い文章選択問題は見られない。また例年多く出題されている、正しい組み合わせを表にした問題は2問出題されていた。資料やグラフの読み取り問題も出題されたが、難易度の高いものではなかった。全体的に標準レベルの問題に終始し、同志社頻出または中学入試頻出問題が多く見られる。

【1】 2019年の『京都新聞』の記事をテーマにした総合問題で、いわゆる時事問題である。同志社は新聞記事を題材にすることがとても多く、毎年といってもよい。問1は予想通りの新紙幣の肖像画の人物に関する問題。問2は一般常識問題で、日本銀行は'14年度に出題されている。問6の出来事を古い順の並びかえる問題は同志社頻出で、特に近現代がよく出題される。問9の自然災害伝承碑の地図記号は問1と同様、出題が予想されていた。他はいずれも標準レベルの問題であった。

【2】 国道1号をテーマにした地理・歴史の融合問題である。問3は東海道新幹線の沿線とまちがえる可能性があるが、問6が(D)県のヒントとなっているので、ミスに気付くであろう。問4の政令指定都市は中学入試の頻出である。全20都市を答えられるようにしておきたい。問10は下線部(力)の「1921年」からでも、問題文の最後からでも正解が判断できる、とてもいい問題である。他の問題は基本レベルなので、【2】は全問正解してほしい。

【3】 さまざまなしごとのしくみをテーマにした地理の総合問題である。問1のグラフの読み取り問題は、同志社にしては珍しく平易な問題である。問3はマイクロプラスチックの問題を扱った時事問題である。問4の県章(シンボルマーク)は同志社では見ない出題である。問8は難問の部類に入るが、イメージで判断できると思われる。実はこれも時事問題といえる。

【4】 オバマさん、マララさん、トゥンベリさんの発言をテーマにした総合問題である。国際平和・人権・環境問題を扱っている。問1のSDGsは昨年からの中学入試頻出である。問2はポスターが貼ってある学園の教室が多いので、身近に感じて解けたのではないだろうか。問4の①は、正解ではないがペシャワール会を取り上げている。中村哲医師が亡くなった事件は昨年の12月なので、扱ったのはたまたまであろうか。問8の「子どもの権利条約」の問題は、【3】問8と同様、知らなくても、文の違和感から解くことができる。「子どもの権利条約」は中学入試頻出である。今回は出されなかった日本国憲法と三権、選挙は来年度要注意である。

■合格に向けての対策

今年度も引き続き、地道に学習をしてきた受験生が報われる難易度レベルでした。ただ、いつ5年前のように難化するかわからないので、油断はできません。対策として、基本的な知識が問われる用語問題や記号選択問題、同志社中学お得意の文章選択問題については、『古今東西』『日本のすがた』『歴史資料』『公民資料』等で、基本的知識や資料を確実に身につけることです。時事問題については、日常からニュースには敏感になっておくことが必要であり、「知識の丸暗記」ではなく、「内容の理解」が重要です。新聞記事が近年頻繁に出されるので、意識して新聞を読んでください。また過去問に取り組むことが非常に有効です。同志社中は過去に出題したものを、形を変えて出題することが多いので、何度も、じっくり取り組んでください。

最後に、同志社の社会は、一部の奇問・難問に固執せず、基本的な確実に正答すべき問題を、日々の通常授業での各メンターからの要点の指導、志望校別特訓・直前特訓等での指導内容を押さえることによって、確実に合格点に結びつけることができます。4科での同志社中合格を祈念しています。